

### あしやの民話 ⑮ 「水番ときつねの ちようちん」

●文・三好美佐子さん  
●絵・竹本 温子さん



むかしのことや。

あしやの村は、田んぼの水に困つとつた。稲が花をつける七月ごろから八月にかけて、特に稲は水を欲しがった。

この時期、農家は、自分の田の水を守ることに懸命やつたから、水の争いが絶えなかった。

ちよつとの水でも欲しかったから、隣の田んぼの土手を切つて、自分の田に水を入れたり、管で水を取つたりするような水泥棒が現れたりした。

昼間は、人の目があるよつて、そんな悪さはせんが、夜は、何をされるかわからんで、用心のため、それぞれの家は水番を置いた。

ある晩、吉兵衛さんの家は、兄さんが水番することになった。

夜も更けてきたので、兄さんは、持ってきた枕がやを田のあぜの上に張つた。辺りはカエルの鳴き声が「ガアガア」とにぎやかや。

かやの中でうとうとしよつた兄さんが「ゴトツ」という音に目がさめた。そうつと起きて、外をうかがつた。

「だれや。」  
「わ、わたし。」

かやの外にでた兄さんは、田のあぜでしゃがみこんどる女の子を見つけた。

「わたし、ではわからん、それに、こんなところへ、何しに来たんや。」

兄さんは、相手が、女の子やつたんで、ふつうの声できいた。

「親戚の家へ行った帰りや。のどが渴いたよつて、水を飲みに来たんよ。」

白い顔が見えた。赤いべべ着たかわいらしい子や。

「こんなに遅う、女の子が来るとこやない。早う帰り。」

と、兄さんは胸をドキドキさせながら言うた。

女の子は、その声が終わらんうちに、すうつと消えてしもた。

兄さんは、女の子がおらんようになつてから、ちようちんが一つ増えていふのに気が付いた。（女の子のちようちんや。）

「おうい。ちようちん、忘れとるでえ。」  
女の子が消えていつた暗闇に向つて言うたけど、返事は返つてこなかった。

女の子が忘れていつたちようちんと、兄さんのちようちんが、田のあぜに仲良う並んでおつて、そこだけが、ぼうつと明るかつた。

次の晩も、兄さんは水番をした。涼しい風が田んぼを通つてやつてくる。

兄さんは、夜のふけるのを待つた。ひよつとして、あの女の子、ちようちんを取りに来るかも知れん。

「来た！」  
遠くに小さい明かりがぼつんと見え、ずんずん明かりが近寄つてくる。

「いや、きのうの女の子が、ここへ来るはずがない。だれやろ。」  
兄さんがそう思うたとき、すぐそばに、きのうの女の子が立つとつた。

「また、来たんか。」  
ちようちんが揺れた。女の子が大きくなつたからやろ。

「こんなところで一人いて、さびしくないの。」

と、女の子は言うた。兄さんは「ああ、カエルも鳴いてくれるしなあ。」

兄さんの声があたりに聞こえたのか、急にかえるが「ガアガア」と、元気に鳴きだした。

女の子は、しばらくいて、帰つて行つた。ちようちんは三つになつとつた。

それから、女の子は毎晩やつて来た。ここへ来るたんびに一つちようちんが増え、十個になつた。

かやの周りに並べられたちようちんに、女の子は一つひとつ明かりをつけていく。白いべべと白い顔が暗闇の中に浮かんでいる。

それは、夢の世界のようだと、兄さんは見ていた。

みんなのちようちんに明かりが入ると、昼間のように明るくなつて、かえるの跳ぶ姿も見える。



兄さんと女の子は、そんな中でお互いの顔を見つめ合つとつた。  
あくる日は、兄さんと父親の吉兵衛さんが水番の交代をする日になつていた。

兄さんと女の子は、そんな中でお互いの顔を見つめ合つとつた。

あくる日は、兄さんと父親の吉兵衛さんが水番の交代をする日になつていた。

兄さんと女の子は、そんな中でお互いの顔を見つめ合つとつた。

あくる日は、兄さんと父親の吉兵衛さんが水番の交代をする日になつていた。

兄さんと女の子は、そんな中でお互いの顔を見つめ合つとつた。

あくる日は、兄さんと父親の吉兵衛さんが水番の交代をする日になつていた。

兄さんと女の子は、そんな中でお互いの顔を見つめ合つとつた。

あくる日は、兄さんと父親の吉兵衛さんが水番の交代をする日になつていた。

兄さんと女の子は、そんな中でお互いの顔を見つめ合つとつた。

あくる日は、兄さんと父親の吉兵衛さんが水番の交代をする日になつていた。

兄さんと女の子は、そんな中でお互いの顔を見つめ合つとつた。

明かりもつけんと、ごろりとかやの中で横になつとつた。そして女の子の来るのを待つとつた。

突然、暗闇にぼうつと、ちようちんの明かりが浮かんだ。

明かりは少しずつ近うなる。

かやの周りのちようちんに、一つひとつ火がともつていく。

「女の子や。」  
吉兵衛さんは、つぶやいた。

女の子は、ちようちんに火をみんなつけ終えて、顔を上げた。目が合つた。

女の子は、ぱつと逃げた。

吉兵衛さんは、その後を追つた。

追うても、追うても、女の子はつかまらん。

とうとう、夜が明けてきた。

近くの人が田へ行く道で、川の中を、一生懸命走つている、吉兵衛さんを見つけた。

「おうい、吉兵衛さん、そんなところを走つて、何しとるんや。」

「む、娘の子、追いかけてるんやが、この土手走りにくいわ。」

「吉兵衛さんや。そこは土手ではないでえ。あしや川の、どまん中や。」

おまえ、キツネにでも、だまされていふのと違うか。」

吉兵衛さんは、がっくり肩を落とした。

その年、秋風が吹き始めて、稲の穂が重くなつた。

兄さんは、水番でつこうて、いらんよになつたかやと、ちようちんを一つひとつ、紙にくるんで納屋にしもた。

戸を閉めるとき、兄さんは、

「ありがとうよ、また、来年も水番しに来ておくれ。」と、小さい声で言うた。

この夏、女の子が持つてきてくれた十個のちようちんのおかげか、水争いは、一つもなかつたという。

●「あしやの民話」は、芦屋に語り伝えられていたお話を、三好美佐子先生をはじめ、民話を研究するグループの皆さんが収集整理して、やさしく民話の形に整えられ、平成十一年に発行されたものです。

### 市制施行50周年記念写真集「芦屋のうつりかわり」を頒布

#### 写真でみる芦屋の歴史

市制施行50周年(平成2年11月10日)に発行した記念写真集「芦屋のうつりかわり」の在庫本を、行政情報コーナー(市役所北館1階)、ラポルテ市民サービスコーナーで頒布しています。



「芦屋のうつりかわり」  
21.6cm × 30.5cm / 135頁 /  
紙表紙・銀箔押し(ハードカバー)  
頒布額 500円



■在庫部数が、残り少なくなっています。残部がなくなり次第、頒布を中止します。

問い合わせ 広報課 ☎38-2006

大阪ガス 事業主体/株式会社アクティブライフ (大阪ガスグループ77.8%出資) www.activelife.co.jp

広告

### 芦屋のグループホーム・在宅介護サービス

生活サポートセンター  
**アクティブライフ 芦屋**  
〒659-0013 芦屋市岩園町11-15

生活サポートセンター  
**アクティブライフ 山芦屋**  
〒659-0082 芦屋市山芦屋町9-18

- グループホーム/空室有ります
  - デイサービス/365日日祝日営業 (認知症対応型)
- ※広告掲載時に満室の場合はご容赦願います。

- グループホーム/申込受付中
- デイサービス/365日日祝日営業 (認知症対応型)
- ホームヘルプ

☎0797-34-6500 ☎0797-25-7100

デイサービス利用がはじめての方へ 無料体験デイ実施中 詳しくはお電話でお問い合わせ下さい

●「広報あしや」バックナンバーは、市ホームページ『広報あしやON LINE』でご覧いただけます。